

日本赤十字九州国際看護大学/Japanese Red

Cross Kyushu International College of

Nursing

卒後2年目を対象としたタスクマネジメントのための
教材開発に関する研究：
より高度な判断基準の獲得を目指して

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 日本赤十字九州国際看護大学 公開日: 2013-01-17 キーワード (Ja): タスクマネジメント, 卒後教育, 判断基準, 教材開発 キーワード (En): management of tasks, recurrent education, criteria, teaching materials 作成者: 石田, 智恵美, 久米, 弘 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15019/000000085

著作権は本学に帰属する。

報告

卒後 2 年目を対象としたタスクマネージメントのための教材開発に関する研究 —より高度な判断基準の獲得を目指して—

石田 智恵美¹⁾ 久米 弘²⁾

本研究では、平成 16 年度に卒後 1 年目研修を受けた A 病院の看護師・助産師が、看護の優先度決定において、さらに高度な判断基準を獲得することを目的とした研修を実施した。研修後の記述内容および感想より、ワークシートを用いた課題に回答することを通して研修目的の 1) 自己の判断基準を明確化する 2) 他者の判断基準を知る 3) 自己の判断基準を拡大する、は達成されていた。研究目的である、卒後 2 年目の判断基準の獲得状況については、昨年よりも獲得された基準は増加していると推測されたが、抽象化・一般化は不十分であるため問いを工夫する必要がある。また、教材に関しては課題の量と難易度の再考、回答しやすいシートの改善、さらに、アンケートの質問項目の変更の必要性が示唆された。

キーワード：タスクマネージメント、卒後教育 判断基準 教材開発

I はじめに

看護実践では、複数の対象者に対して最適な看護を、限られた時間内に提供することが求められる。複数の対象者の看護を並行して行うためには、看護の優先度を決定し、業務をいかに効率的に行うかというマネージメントも必要となる。このような業務調整（タスクマネージメント）は、特に新任看護師にとって、学生の時期にほとんど経験したことがないため、就職してからの数ヶ月はパニックに陥ることも少なくない。一方、新任看護師を支える周囲の先任看護師にとっては、新人看護師のフォローアップのため過剰な仕事量となり、この時期に医療過誤が起りやすくなるのは必至である¹⁾。

このような現状を踏まえ、平成 16 年度より 3 年計画で、最適な看護を行うためのタスクマネージメントに関する研修を研究的に取り組んでいる。平成 16 年度は、同年 4 月に A 病院に就職した新任看護師・助産師を対象とした研修（卒後 1 年目研修）を、3 回のシリーズで行った。この研修は、自己の看護の優先度における判断基準を明らかにし、他者の判断基準を知ることさらに基準を拡大することを目的として行われ、研修で用いたワークシートの記述内容や終了後の感想により、目的はほぼ達成された。

本研究では、平成 16 年度の研修を受けた看護師・助産師を対象として、より高度な基準の獲得を目指した卒後教育（研修）を継続して実施する。前年度の結果を踏まえ、卒後 2 年目の看護師・助産師の判断基準の獲得状況を明らかにするとともに、それらを反映させた教材の作成を目的とする。

II 研究方法

1. 対象および実施日

対象：A 病院に就職して 2 年目の看護師および助産師 34 名

期日：＜研修 1＞平成 17 年 6 月 27 日

＜研修 2＞平成 18 年 3 月 10 日

時間：17:30～19:00 の 90 分間

2. 研修の概要

1) 目的

- (1) 自己の考えを（判断基準）記述することにより明確化する。
- (2) 他者の判断基準を知る。
- (3) 自己の判断基準を拡大できる。

研修に際しては、受講生の記述を促すために、発問・応答形式の「ワークシート」を教材として作成し使用した。分析対象はワークシートに記述された事柄である。

2) 研修の進め方

1) 日本赤十字九州国際看護大学

2) 九州大学大学院人間環境学研究院

受講生34名を1グループ5~6名の6グループに分け(2回の研修は同じメンバー)、ワークシートを1人1部配布する。研修のはじめに、研修の目的・目標・進め方に関するオリエンテーションをワークシートに沿って行う。

3) ワークシートの構成

ワークシートは、個人作業課題・グループワーク課題・おはなし・まとめ・おわりに、で構成されている。

個人作業課題は、研修目的(1)自己の判断基準の明確化に相当する。

グループワーク課題では、個人作業の回答を基にグループディスカッションを行う。その際に、自己と他者の考えの違いが明確にできるよう、「なるほど」、「うまい」、「そうだったか」、あるいは「何で?」、「おかしい」と思った事柄を記述するための欄が用意されている。研修目的(2)および(3)の他者の判断基準を知り、さらに自己の基準を拡大するに相当する。

おはなしは、活動の意味づけと課題について解釈を示したものである。前年度は意図的に、オープンエンドで毎回の研修を終了させたが、それに対して「これでいいのかわからない」と、受講生の不安がみられた。このことに対する改善策である。ただし課題に対する1つの解答を示すのではない。

まとめでは、個人作業およびグループワークを終えて新たに気づいたこと、考えが変わったことなどの記述を求めた。

おわりには、研修を終えての感想を記述するもので、1回目の研修終了時には、(1)自分の考えが十分書けたか、(2)他者の考えが参考になったか、(3)楽しかったか、(4)またやってみたいかについて、4段階評価のうち最も近いと思うものに○印を記入する。さらに自由記述欄も設けられている。2回目の研修終了時には、当日の研修について(1)楽しかったか、またやってみたいか、の項目に加え、2回の研修全体について、(1)自らの判断基準に自信が持てるようになったか、(2)3年目以降もこのような形式の研修をやってみたいか、(3)後輩にもこのような形式の研修を勧めるか、について回答を求めている。

3. 研修内容

＜研修1 必要物品準備シミュレーション＞

この課題は、卒後2年目で対応が必要とされる緊

急入院時の準備という設定で、少ない情報から対象者の状況(疾患名や病状)を推測し、必要かつ十分な物品をベッド周囲に配置する作業である。病室はスペースが限られており、不要な物品は邪魔になるが、一方、不足すれば急変時に即応できない。過不足なく準備するには適切な状況判断が求められる。課題に回答することにより、受講生自らがどのような情報に着目し将来を予測したか、また、根拠を記述することによりどのような基準を使ったのかを確認することを目的とする。

課題1 個人作業 20分

緊急入院の連絡があり、外来受診時の対象者(以下対象者Aとする)の状況と医師の指示が提示されている。

問1では対象Aの状況から疾患や病状を推測し、そのように推測した理由とともに記述する。問2では必要物品をその理由とともに列挙する。問3では入院してきたAさんに観察する事柄をその理由とともに記述する。問4では、入院時の検査項目の中でどの結果を優先して知りたいかをその理由とともに記述する。

課題2 グループワーク 30分

課題1の回答をもとにグループでディスカッションする。

おはなし 5分

物品を準備する際に、筋肉注射にはこれ、清拭にはこれ、という暗記型では、対象の状況に応じて対応することが困難となる。症状を聞いたときに病態や疾患名を考え、今後の予測をすることが必要である。同じ症状でも自分と他者の推測する疾患が異なっていたり、今後の予測が違っていたりする。準備する際には考えられる範囲で最悪の場合を想定すること、妥当性を高めるためには確認のための観察が大事であることを話す。

＜研修2 スケジュールリングシミュレーション＞

この課題は、限られた時間内での看護実践のスケジュールを立てることを通じて、タスクマネジメントを行う際の基準の記述を求めたものである。

現在行っている業務に類似した状況を設定し、最適なスケジュールを個人・グループで考えながら、複数の基準を使って優先度を決定するための手がかりをつかむことを目的とする。また、追加情報を提示し、スケジュールの組み換えを行うように仕向け、その際にどのような判断基準を使ったかを気づかせ

ることも目的としている。

課題 1 個人作業 20 分

看護実践に関して緊急性と難易度の異なる 3 人の対象者（以下対象 A、B、C とする）を受け持ち、9 時から 15 時までの勤務のスケジュールを組み立てる。夜勤の看護師から A、B、C の情報が提示されている。

問 1 ではタイムテーブルに業務を配置する。問 2 ではスケジュールを立てる際に着目した情報と活用した基準を記述する。

課題 2 個人作業 15 分

新たな入院 (D)、さらに、立て続けにナースコール (E) や電話 (M)、窓口 (F) での対応を迫られるという状況で、課題 1 で立てたスケジュールの追加・修正を余儀なくされる。その際、どの時刻にどの業務を配置するか、またその根拠は何かを記述する。

課題 3 グループワーク 20 分

課題 1 および 2 の結果を基にディスカッションし、グループで最適なスケジュールを組み立てる。

おはなし 10 分

課題 1 および 2 のスケジュールについて、先輩看護師（石田）のスケジュールを例として紹介する。その際に、どの情報に着目し、そこからどのようなことを予測したか複数の状況を紹介し、もしこうならば、こうするという条件付きのスケジュールと、複数の基準を活用することの必要性を説明する。

4. 倫理的配慮

研修参加者には、研究目的を説明し協力をお願いすると同時に、プライバシー保護については①コード化した記号を用いて個人を特定するため他人は知ることができないこと、②情報管理を十分に行うこと、記録物は研究目的以外には使用しないことをインフォームド Consent 用紙に明記し、記録物や研修への参加状況は評価に結びつくものではないことを説明した上で、署名による同意を得ている。

Ⅲ 結果

1. 研修 1 について

1) ワークシートの記述内容

課題 1 (個人作業)

問 1 の推測される疾患や病状については全員記述していた。疾患名が単に列挙された記述とその症状から将来を予測した記述もあった。また、疾患の推測理由については、外来受診時の症状や測定値を単

に列挙した記述と、データから身体内部の状況を推測し、具体的に記述したものがあつた。また、所属する病棟によって推測される疾患が異なっていた。

問 2 の準備する物品とその理由は、全員が記述していた。症状から多くの疾患を予測し、随伴症状を具体的に記述できた者は多くの必要物品をその理由とともに記述できていた。

問 3 の、観察点とその理由および、問 4 の、優先して知りたい検査結果の記述は、観察した理由の妥当性を確認するために検査結果を知りたいという、論理的な思考が見られた。

課題 2 (グループワーク)

「なるほど」と思った事柄は、疾患名や病状では、他者に言われてはじめて気づく疾患があつたこと、必要物品では、次の検査を予測して準備をすること、手術になることも考慮した（移動しやすい）物品の細かい選択、症状が悪化しないための物品を準備する必要性について記述されていた。観察項目では、検査結果によってはさらに緊急性が高まること（CT や X-P から穿孔やイレウスの可能性も）もある、複数の疾患の予測から妥当性の低いものを削除することも必要である、等が記述されていた。

また、他の人の意見を聞いて削除したり、追加したりする作業もみられた。

まとめ

新たに気づいたこととして、つぎのような記述がみられた。

- ・最悪なことを予測して準備する
- ・かたまってしまいがちな考えから視野を広げることが大事だ（ディスカッションで広がった）。
- ・情報が多すぎないのでさまざまな角度からみることができ、考えもしなかった疾患もあつて、なるほどと思った。
- ・自分の知っている知識だけでなく他人の意見を聞くことでとても勉強になった。
- ・起こりそうにないことでも「起こる」ことがあるのでその視点を大事にしようと思う。
- ・自分でアセスメントするのも大切だが、他の人の意見を聞くことも大切なアセスメントにつながる。
- ・あらかじめ疾患を想定して観察準備することはとても大事だ。
- ・知識が少ないため予測できる疾患が少なかった。
- ・以前に比べて予測して行動できていると思う。
- ・さまざまな経験や知識を持ち寄ることで、同じ症

状からたくさんの方が予測でき、とても勉強になった。1つの事柄をいろんな方面から見ることの大切さや見ないといけないということ、見るためには知識が必要なことなど、あらためて実感できた。

2) おわりにの記述内容

(1) 研修終了後の感想

4段階の評定の結果を表1に示す（セル内は人数、有効回答数33）。

表1 研修1終了時の感想

	とても	思う	思わない	全く思わない
自分の考えが書けた	6	23	4	0
他者が参考になった	18	15	0	0
楽しかった	2	27	4	0
またやりたい	0	9	22	2

次のような記述がみられた。

- ・1年間でお互いの知識が増えていることを実感できた。多くの意見を聞くことで学習が広がった。
 - ・先を予測することは難しいが、とても良いやりかただと実感した。
 - ・少ない情報から多くのことを考え、状況を広げていくことは難しいが、楽しかった。
 - ・二度と（研修を）したくないと思っていたが、今回は質問が簡単で自由に書けたのでとても楽しかった。
 - ・時間配分がちょうど良かった。
 - ・頭を使うのであまりやりたくない気持ちもあったが、終了後の充実感を感じた。
 - ・疾患の症状を暗記するよりも、症状から多くの状況を予想することが大切だと思った。他の意見を聞いて、様々なことが予想できることを知った。
 - ・こういう研修はとても必要だと感じた。
 - ・患者の状況を把握し、次に起こるだろうことを予測することで、患者の状態に応じた看護を提供できると思う。今回予測できなかったこと、他の意見を聞いてなるほどと思ったことは何だったか、忘れないようにしたい。
 - ・楽しくないが、やらなければならないことかなあと思う。やりたいではなく、やらなければならない。参考になって良かった。
- 一方、答えが知りたいという感想も2件みられた。

2. 研修2について

1) ワークシートの記述内容

課題1（個人作業）

問1のタイムテーブルへの業務配置は、全員が行動レベルで記述していた。問2の着目した事柄では、現在の状況のみに着目している記述と将来を予測（例えば、「悪化するかも」等）した記述があった。また、このような場合は医師に確認するなど調整のための記述もみられた。また、将来を予測して、随伴症状を観察項目にいった記述もみられた（腹腔内出血の可能性があるので血圧測定を早くなど）。A～Cの重症度を明記した記述もあった。使用した基準は、個別的で具体的ではあるが、悪化する可能性、症状が変化する可能性（このような可能性があるときにはできるだけ自分の目で確認する）、定時に行うものは優先すべき、自分でできるところはしてもらう、不快なものはできるだけ取り除く、疼痛は早くとりぞきたい、理解度はありそう、といった判断基準と推測されるものが記述されていた。

課題2（個人作業）

スケジュールの組み換えは、タイムテーブルに業務を記述している者が11名だった。それ以外の者は欄外にメモしたり、課題1に書き込む者もいたが、全く記入していない者はいなかった。

業務の終了予定時刻を考慮しながら、スケジュールを追加している記述（点滴が終了するので訪室など）や、短時間で終了する業務と時間を要するものを区別し調整した記述もみられた。また、点滴の速度をゆづめて業務が重ならないように調整する記述もみられた。もしこうならば、この時間にこれをするとして将来を予測しながら業務の追加と時間調整を行った記述もみられた。

課題3（グループワーク）

グループで1つの「ベストタイムスケジュール」を立てる課題では個人作業よりも具体的でしかも、整理されたものが示されていた。

グループワーク後に変化した自己の基準に関しては記述が少なかった。重症度や時間処置、他の人に依頼できることは依頼する、緊急を要するかそうでないかを判断する、受け持ちが増えるので時間配分を細かく決め、時間の短縮を図るスケジュールをたてる、という記述が見られた。

気づいたことについては次のような記述が見られた。

- ・患者の症状だけにとらわれず、自立度も考慮することが必要
- ・いくつかのことが同時に重なったときに、どう対応するかいろんな意見があり参考になった。
- ・保清の時間を考えていなかった。普段の業務ではやっているが、文章化すると忘れていた。
- ・6 人のメンバーが異なるスケジュールになると思ったが、ほとんど同じだったことがすごいと思った。同じような判断基準で優先順位を決めているのでは？
- ・何かが起こるかもしれないことを前提に動く。
- ・処置を時間どおりに行うだけでなく、患者の思いを聞いたり情報収集も同時に行う。患者さんの状態によって優先度も変わる。
- ・バイタル、症状、データによりタイムスケジュールの変更が必要であることを日々の業務・グループワークで痛感する。一人ですべて対応するのではなく、依頼できるものは依頼し、できるだけタイムリーなケアを提供できるように考えておく必要がある。
- ・同時にコールの対応や電話の対応は実際起こることで焦ってしまう。紙面上でよく考えれば優先順位をつけることができ、対応できると思うので焦りそうな時こそ、冷静に優先順位を考え、対応していきたい。
- ・忙しい、重なるときこそ順番をつける。1 年目のスタッフは私のスケジュールでは動けそうにないのでもっとわかりやすく書かないといけな。
- ・食事のセッティング、トイレへの声かけなど前もった援助ができればナースコールが減る。立て続けに忙しくなっても基準や優先度がわかれば落ち着いて対応できるとわかった。

2 回の研修のまとめ

なるほどと思ったこと

- ・留置カテーテルを抜去してからの排尿の時刻を予測し、抜くタイミングを決めればよいと聞き（おはなしで）なるほどと思った。また、坐薬の効果が発現する時間を予測し、発汗に対して保清する計画を立てるのも納得した。根拠に基づいた看護を行っていると思った。
- ・処置などが重なり忙しいときも冷静に考えればタイムスケジュールを立てることができると思った。
- ・今までの研修は 1 人の患者に着目することでせいっぱいだったが、今回は複数を並行して考える

という点で、自分も少しは成長しているのかと感じた。

- ・流れのように動いているように思っていたけど、文字にすることで自分なりにアセスメントして動いていると思った。
- ・患者から言われる前にこちらから予測して働きかけることで患者看護師ともにゆとりをもって接することができる。優先度の基準を自分なりに立てておくことで、多くのことがあっても落ち着いて処理できる。
- ・Dさんをトイレに近い部屋に入院させる意味を考えている（おはなし）ところがすごいと思った。
- ・以前よりも考える視点が広がった。自分が言葉で説明していることの中にこれまで習得してきたことが出ていることがわかった。1 年目のときよりも判断ができていると思う。
- ・皆が同じように考えていることがわかり、少し自信がもてた。

2) おわりにの記述内容

(1) 研修終了後の感想

研修 2 終了時の 4 段階の評定の結果を表 2、研修 2 回を通しての結果を表 3 に示す（セル内は人数、有効回答数 24）。

表 2 研修 2 当日終了時の感想

	とても	思う	思わない	全く思わない
楽しかった	0	17	1	1
またやりたい	0	6	16	3

表 3 2 回を通しての感想

	とても	思う	思わない	全く思わない
判断基準の自信あり	1	18	2	3
3 年目以降もやる	0	15	6	3
後輩に勧める	0	15	6	3

IV 考察

1. 研修目的の達成度

課題の記述内容およびまとめの記述内容から次のような事柄が明らかになった。

1) 自己の判断基準の明確化について

自分で気づいたものと他人から気づかされたものを区別して記述しており、自己の判断基準を明確にするとともに、他者の基準を積極的に取り入れていることが推測された。一方、個別に見てみると記述量とその内容(単に列挙されただけの記述もあれば、

今後の予測が記述されたものもある）には個人差があることが再確認された。

また、記述して改めて、自分が考えながら行動していたことに気づいたり、言葉で説明することによってこれまでに習得してきたことを確認できたことが明らかになった。さらに、判断基準を持てたことは、「業務が忙しくなったとしても基準を持っていれば優先度を決定できる」という自信につながっていることも伺えた。

2) 他者の判断基準を知り、基準を拡大できる

他者の意見を聞くことで視点が広がっていることは記述より明らかである。また、他者のアセスメントを聞くことで自分のアセスメントが深まっていることを実感していた。さらに、他者も同じような基準で考えていることが自信や安心につながっていることと、お互いが1年前よりも判断できるようになったと実感できていた。

一方、課題で求めている、予測される疾患の記述には、どの病棟に属しているかによって明らかに差がある。これは、日ごろ関わっている対象から連想される事柄が強いためと思われる。記述にもみられていたが、だからこそ他の病棟のメンバーとディスカッションすることで自分では思いつかない新たな発見があり、視点の拡大につながったと考えられる。

2. 判断基準の獲得状況について

課題に回答する際に使用した基準は、具体的・個別的ではあるが、複数使用していることが示されていた。今後、他者への説明を求めるような問いを作成することにより、基準を共有化できる記述が可能になると思われる。また、感想によると、日常の業務の中で意識せずとも、優先度を決定する際には判断基準を用いていることが示されており、昨年に比べて使用する判断基準は増えていることが伺える。また、記述することにより意識化されていた。

3. 教材（ワークシート）について

研修1の課題の難易度と量については、感想にもみられたように適切であったと思われる。一方、研修2では、課題2の記述が途中で終わっており、量としては多かったと思われる。また、課題2に指定された欄があまり活用されていなかったことから、例えば課題1に書き込むというような工夫が必要だったと思われる。

課題の量については、平成16年度の卒後1年目の研修結果を踏まえて負担を減らし、ディスカッションに十分時間をとるように配分したことが効果的だったと思われる。ただし、昨年よりも少ない量でかつ抽象度の高い情報を使つての回答を求めたため、難易度としては高く設定されている。ところが、回答には具体的な記述が多かった。このことは、受講生個々の看護実践の量や質が向上していることを示している。また、記述量が増えていることから、思考の訓練の効果が現れたものと考えられる。

課題の難易度に関しては、情報量が多ければ考える幅が広がり過ぎ、思考が散漫になる可能性が高い。逆に、具体的な状況設定は狭い範囲の思考になる可能性もある。そのため、次年度の教材作成にあたっては、少ない情報設定から開始し、結果を見ながら情報を増やしていくことが必要と思われる。

研修後の感想では、「やりたくない」と回答していても「役に立った」と回答しており、研修の必要性は認めている。「頭を使うのであまりやりたくない気持ちもあったが終了後の充実感を感じた」、「楽しくないが、やらなければならないことかなあと思う」といった感想もみられている。従って、やりたいか、楽しかったか、といった個人的な思いに関しては問う必要はないだろう。むしろ書けなかった箇所を具体的に記述できる、あるいは測定できるような尺度化が必要と思われる。次年度への検討事項である。

今回の研修におはなしを入れたのは、ワークシートの自由記述の欄に「なるほど」という記述もあり、効果的だったと思われる。また、研修を振り返り整理する機会になったと考えられる。

V 結論

本研究では、平成16年度に卒後1年目研修を受けたA病院の看護師・助産師が、さらに高度な判断基準を獲得するための研修を2回にわたって計画・実施した。課題へ回答することで自己の判断基準が明確化され、日常意識せずに使っている基準を意識化することができていた。また、グループワークでのディスカッションを通じて視点を拡大することができており、同時に獲得してきた判断基準がお互いに増えていることに気づき、自信をもつことにつながっていた。従って、研修目標は達成されたと評価できる。

判断基準の獲得状況は、記述より推測される基準

はあったものの、抽象化や明確化という点では十分ではないため、問いを工夫する必要がある。さらに、教材については課題の回答が記述しやすいようにシートをさらに改善することと、アンケートの問いを検討する必要性が明らかになった。

以上のことを踏まえ、次年度はさらなる改善を図りたい。

謝辞

本研究に際しては、福岡赤十字病院の大内田看護部長、江田副看護部長、教育担当の梅崎師長、山根

師長に多大なご協力と有益なご意見をいただきました。記して感謝いたします。

なお、本研究は、平成 17 年度日本赤十字九州国際看護大学 奨励研究の助成によるものである。

文献

- 1) 石田智恵美・久米弘：初任者を対象としたタスクマネジメントのための研修テキストの開発に関する研究 1－よりより看護のための思考トレーニング－. 日本赤十字九州国際看護大学 Intramural Research Report、4：105-117、2005.

A Study to develop Teaching Materials for Working Nurses

Doing Management of Tasks

— for the understanding of advanced criteria —

Chiemi ISHIDA, M.Ed.¹⁾ Hiroshi KUME, M.Ed.²⁾

The purpose of this study was to observe the development of teaching materials which were used in the advanced training course to ensure that the participants understood the required in order to make a high-level decision. The training course was aimed nurses and the midwives who graduated from a nursing training school 2 years ago. And the objectives were aimed in the advanced training course in 2006, and the objectives were achieved. The objectives were specifically : (1) clarification of a self-criterion, (2) knowledge of others' criteria, (3) expansion of a self-criterion. On the other hand, the number of the criterion which was acquired this year has increased more than last year, but these were not enough number to express them as an abstracted and generalized one. Consequently, necessary to improve the answer box of the worksheets, and to consider the difficulty of each exercises. And in addition, it was suggested the question items should also be improved.

Key words: management of tasks, recurrent education, criteria, teaching materials

1) The Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing

2) Faculty of Human-Environment Studies ,Kyushu University